

伝統芸能

春号

日本の祭り



岐阜県 揖斐川町
「谷波踊」



岩手県 一関市
「南沢神楽」

出かけよう!! 「静」と「動」と「魂」の祭典に!



岐阜県 小鹿野町
「小鹿野春まつり」



熊本県 天草市
「牛深ハイヤ祭り」

日本には心に染みる「静」の祭りと熱気あふれる「動」の祭りがある。
伝統芸能には先史の良き時代から大切に継承された「魂」がある。

この冊子の内容は右記のホームページからご覧になれます。地域伝統芸能活用センター <http://www.dentogeino.or.jp>

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



日本の祭りには胸が高鳴る「興奮」とほのぼのとした「安らぎ」があり、伝統芸能には太古より受け継がれた栄華の「命」がある。



実施日 毎年2月第3土曜日
平成26年は2月15日(土)



岡山県岡山市 西大寺会陽

実施日 毎年2月17日~20日
平成26年は2月17日(月)~20(木)



青森県八戸市 八戸えんぶり

4 2月/西大寺会陽 P4

実施日 毎年3月・6月・9月・11月
第3日曜日



宮崎県都城市 山之口麓文弥節人形浄瑠璃

10 4月/牛深ハイヤ祭り P6

6 3月/山之口麓文弥節人形浄瑠璃 P4

実施日 毎年4月第2土曜日・日曜日
平成26年の開催日は未定です



茨城県日立市 日立さくらまつり

地域伝統芸能賞受賞祭事を中心に選出しています

実施日 毎年4月第3金曜日・土曜日
平成26年は4月18日(金)・19日(土)



埼玉県小鹿野町 小鹿野春まつり

1 2月/八戸えんぶり P3

5 3月/南沢神楽 P4

7 4月/雄勝法印神楽 P5

8 4月/越中の稚児舞 P5

4月/日立市「日立さくらまつり」

9 4月/小鹿野春まつり P5

4月/長浜市「長浜曳山まつり」

2 2月/王祇祭 P3

3 2月/谷汲踊 P3

実施日 毎年4月
平成26年は4月9日(水)~17日(木)



滋賀県長浜市 長浜曳山まつり

CONTENTS 目次

- 日本各地の祭り・伝統芸能分布図 P1・P2
- 1 八戸えんぶり P3
- 2 王祇祭 P3
- 3 谷汲踊 P3
- 4 西大寺会陽 P4
- 5 南沢神楽 P4
- 6 山之口麓文弥節人形浄瑠璃 P4
- 7 雄勝法印神楽 P5
- 8 越中の稚児舞 P5
- 9 小鹿野春まつり P5
- 10 牛深ハイヤ祭り P6
- 地域伝統芸能活用センターよりご案内 P6

青森県
八戸市

はちのへ
八戸えんぶり

毎年2月17日～20日
平成26年は2月17日(月)～20日(木)



春を呼び、その年の豊作を祈願する伝統の祭り

「八戸えんぶり」は春を呼ぶ豊年祈願の祭りです。名称は田んぼの土をならす「杵(えぶり)」という農具に由来すると伝えられ、馬の頭をかたどった烏帽子を被った太夫が手にする「ジャンギ」と呼ばれる棒はその象徴とされています。800年前、甲斐の国(現在の山梨県)から来た南部光行の家来たちによってはじめられた等諸説唱えられております。

現在は八戸地域を中心に30数組が活動しており、各町内の大人たちから子どもたちへ芸の伝承が続けられ、太夫の勇壮な舞と子どもたちの愛らしい祝福芸が披露されます。国の重要無形民俗文化財に指定、青森冬の三大祭り、みちのく五大雪祭りに数えられています。

アクセス 電車：JR八戸線「本八戸駅」下車、徒歩約10分

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



八戸市観光課
<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/festival/enburi/index.html>

山形県
鶴岡市

おうぎさい
王祇祭

毎年2月1・2日
平成26年は2月1日(土)～2日(日)



夜を徹して奉仕される国指定重要無形民俗文化財「黒川能」

鶴岡市黒川地区の鎮守春日神社の年4回の例祭に、神事として黒川能が奉納されます。中でも天地凍てつく旧正月に行われる「王祇祭(おうぎさい)」は最も重要なお祭りとなっています。

2月1日未明に春日神社の神霊が宿る「王祇様」と呼ばれる依代を上座、下座それぞれの最年長者の民家(当屋)にお迎えし、座中が出席しての座狩り、当乞いの行事と振る舞いが行われた後、夕刻から幼児が勤める「大地踏」、その後には式三番、能5番、狂言4番が夜を徹して演じられます。翌朝、王祇様を再び春日神社に還し、神前で脇能、大地踏、式三番が演じられた後「尋常事(競争の神事)」が行われ、2日の夕刻にお祭りが終わります。

アクセス 電車・バス：JR羽越本線「鶴岡駅」から、あさひ交通バスエスモール・鶴岡駅前～松根～朝日庁舎行き「黒川」下車

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



写真提供「黒川能保存会」

鶴岡市観光連盟
<http://www.tsuruokakanko.com/>

岐阜県
揖斐川町

たにくみおどり
谷汲踊

毎年2月18日
平成26年は2月18日(火)3回上演



12人の太鼓打ちが、大太鼓を鳴らす!!

谷汲踊は、今から約八百年あまり前より伝わる武者踊で、源氏が源平合戦の勝利を祝って踊ったのが始まりと伝えられています。その後、徳川幕府中期に大早魘があり、農民は一心に氏神様に雨乞いをするために神楽として踊ったことにより雨乞い踊と称し、また、のちには豊年踊として受け継がれてきましたが、社会情勢の変化に伴って次第に衰退していきました。衰退していくこの踊りの復興を図るために「谷汲踊」と命名し、保存会が設立され、今の踊りが受け継がれています。

谷汲踊は、背中には竹に五色の色紙を張り付けた長さ約4メートルで鳳凰の羽根を形取った「シナイ」を背負い、腹には直径約70センチメートルの太鼓を抱かえ、総重量は約22キログラムになります。

揖斐川町公式ホームページ
<http://www1.town.ibigawa.lg.jp/kankouyouhou/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス 電車：樽見鉄道「谷汲口駅」から揖斐川町コミュニティバス「谷汲山」下車
養老鉄道「揖斐駅」から揖斐川町コミュニティバス「谷汲山」下車
車：名神高速「大垣IC」から約50分、東海北陸自動車道「美濃IC」から約50分

岡山県
岡山市

さいだいじえよう
西大寺会陽

毎年2月第3土曜日
平成26年は2月15日(土)



日本三大奇祭の一つとも言われる裸祭り

西大寺会陽(はだか祭り)は500年以上の伝統を誇り、日本三大奇祭の一つとして全国に知られています。その歴史は、新年の大祈祷である修正会(しんじゆえ)の結願日に配られていた守護札(牛玉)の御利益が評判になり、希望者が殺到するようになったため、永正7年、時の住職忠阿上人が、守護札(牛玉)を巻いた宝木(しんぎ)を信徒の頭上に投げ込んだところ、奪い合いになったのが始まりと言われていました。

会陽当日は、裸衆が続々と境内に集まり、冷水で身を清めた後「ワッショイ、ワッショイ」の掛け声とともに場内を練り歩きます。そして、午後10時に全ての明りが消される中、2本の宝木が本堂2階の御窓から投下されると、数千の男達が宝木を求めて激しい争奪戦を繰り広げます。見事、宝木を勝ち取った男性は福男と呼ばれ、1年の幸運が約束されます。

アクセス

電車：JR赤穂線「西大寺駅」から徒歩約15分
車：山陽自動車道「山陽IC」から県道37号線を南に約12km

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



岡山商工会議所西大寺支所内(西大寺会陽奉賛会)
<http://www.optic.or.jp/saidaijicci/>

岩手県
一関市

みなみざわかぐら
南沢神楽

毎年3月
平成26年は3月9日(日)一関文化センターにて公演



遊ぶところはねえが、ここには神楽がある

全戸28戸、人口103名の一関市萩荘南沢地区に伝承されている南沢神楽は、岩手県南部から宮城県北部に広く分布する南部神楽に分類されます。南部神楽の由来や発祥は諸説ありますが、旧仙台藩に伝承されていた法印神楽と旧盛岡藩の早池峰山を中心とした山伏神楽の影響を受けていると考えられ、これに奥浄瑠璃を劇化した演目(劇舞)が加わり、明治期に独自の発展を遂げたと考えられています。

南沢神楽は、南部神楽の中の自鏡山山伏(法印)神楽の流れを受け継ぎ、昭和15年に創設されました。その後、各種大会や催事等の公演で活動は拡大しましたが、昭和50年頃に後継者不足の問題などで一時衰退します。平成11年頃、再興の機運が高まり活動を再開。現在は、集落の約半数が加入し各地の神社での奉納のほか各種大会、発表会などで積極的な公演活動を行っています。毎年3月中旬には一関文化センターにおいて、一関民俗芸能祭が開催されており、南沢神楽のほか一関地域の郷土芸能が披露されています。



アクセス

※一関文化センター
電車：JR「一関駅」から徒歩約5分
車：東北自動車道「一関IC」から約10分

一関市ホームページ
<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

宮崎県
都城市

やまのくちふもとぶんやぶしにんぎょうじょうり
山之口麓文弥節人形浄瑠璃

毎年3月・6月・9月・11月
第3日曜日



国の重要無形民俗文化財!!

「山之口麓文弥節人形浄瑠璃」は、参勤交代の折、京都・大阪で流行っていた「岡本文弥」が語る人形浄瑠璃を習い覚えた郷土たちが持ち帰り演じたとされています。江戸時代から明治初期に製作された27体の人形と共に現代に引き継がれている貴重な文化遺産として高く評価されており、年4回(6・9・11・3月の第3日曜日)定期公演が行われ平成7年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

伝承活動として、人形浄瑠璃保存会の指導の元、地元の小学校5・6年生によるサークル活動も行われ、地区内のイベントや3月の定期公演等で上演しています。代表的な演目として、「出世景清」「門出八嶋」があり、古浄瑠璃愛好者が幾度となく来館し絶賛されています。



アクセス

電車：JR日豊本線「山之口駅」から車で約5分
車：宮崎より国道269号経由で約55分
鹿児島より九州自動車道経由で約1時間40分

都城市教育委員会
<http://cms.city.miyakonojo.miyazaki.jp/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

宮城県 石巻市

おがつ ほういん かぐら

雄勝法印神楽

石巻市

宮城県

実施日 4月中旬～下旬雄勝地区各集落の神社春季例大祭
震災の影響のため平成26年は未定

東日本大震災より復興目指す!!

600年以上も昔から舞われてきたといわれる「雄勝法印神楽」は、羽黒派の修験者たちが一子相伝で舞い伝え、現在は保存会に伝承されて雄勝町内の神社及び氏子と密接な関係にあり祭典時に奉納されます。羽黒派の神楽の特徴は、太鼓二人と笛一人で、ゆったり優雅に舞う場面と力強く勇壮に舞う場面があり、反閉（へんぱい）といわれる足さばきや寅と呼ばれる足運び、指で印を結ぶなど修験道独特の古風さを今なお残しております。内容は神話から取り入れられ、宇宙や地球の成り立ちから、神々の誕生や活躍等ドラマチックな内容となっており現在でも24演目奉納することができます。平成8年に「国の重要無形民俗文化財」に指定されましたが、東日本大震災により伝統のお面、衣装もほとんどを失い存続が危ぶまれました。しかし、平成23年5月「おがつ復興市」で震災後初めて神楽を奉納し、多くの励ましや支援を受け、一つ一つ道具を揃え、今日に至っています。



アクセス 車：三陸自動車道「河北IC」から約40分

社団法人 石巻観光協会
<http://www.i-kanko.com/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

富山県 宇奈月

えつちゆう ちごまい

越中の稚児舞

富山県 宇奈月

実施日 毎年4月第3日曜日
平成26年は4月20日(日)

伝統ある舞を4人の稚児が奉納

黒部市宇奈月町明日の明日山法福寺に伝わる民俗芸能化した郷土舞楽です。かつて毎年4月18日の観音会に境内に仮設した四方吹き抜けの舞台上で稚児舞を奉じていましたが、現在は4月第3日曜日に奉納します。舞人は明日地区を中心とする小学校児童で、大稚児二人、小稚児二人の四人です。稚児は4月初めから法福寺に集まり稽古を始め、奉納二日前に音合わせ、衣装合わせを行います。奉納当日、稚児は当番役の肩車に乗り、観音堂から舞台に渡り、舞が終われば肩車で戻り稚児を神の依代として土を踏ませぬ定めを守っています。舞は笛と太鼓で奏楽され、矛の舞・太平楽・臨河の舞・万歳楽・千秋楽の五曲が伝承され、素朴で古式ゆかしく演じられます。この稚児舞がいつ頃から伝承されたかは不明ですが、文禄年間(1592～1596年)に法福寺の再興記念事業として始まったものと伝えられています。



アクセス 電車：北陸自動車道「黒部IC」から車で約20分
車：富山地方鉄道「愛本駅」下車、朝日町営バス及び入善町営バス「旧愛本支所前」降車徒歩約10分

黒部市教育委員会 生涯学習スポーツ課
<http://www.city.kurobe.toyama.jp/info/svSecHP.aspx?seccd=2011010000>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

埼玉県 小鹿野町

おがの はる

小鹿野春まつり

埼玉県 小鹿野町

実施日 毎年4月第3金曜日・土曜日
平成26年は4月18日(金)・19日(土)

全国でも珍しい屋台歌舞伎を上演

4月の第3金曜日・土曜日の両日行われる小鹿神社の例大祭(小鹿野春まつり)は、春爛漫の穏やかな陽気の中、可憐な衣装を身に着けた「上乗り」「反り木」「拍子木」「金棒つき」などの役人が力いっぱい声を上げ、4基の豪華な屋台・笠鉦を曳行しながら町中を進みます。町の人々は、この光景をたいへん誇りにしています。約400年前の江戸時代初期、小鹿野盆地の中心に、市場、代官所、寺院、神社などが計画的に建設されました。その折、諏訪神社を上森(現在小鹿神社が鎮座する位置)に移転し、町並みの入口(現在小鹿神社旧本殿がある飛び地境内)に小鹿野明神を移転させ、両方の神社を小鹿野の鎮守に祀っています。こうした由来から、現在でも市街地の東西にある小鹿神社の間を神輿が往復することが祭礼の基本となっています。

アクセス 電車：西武秩父線「西武秩父駅」から西武バス栗尾行きまたは小鹿野車庫行き「小鹿野役場」下車徒歩約2分



小鹿野両神観光協会
<http://www.kanko-ogano.jp/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

熊本県
天草市

牛深ハイヤ祭り



実施日

毎年4月第3土曜日・日曜日
平成26年は4月19(土)・20(日)

天草の春を彩る一大イベント

牛深ハイヤ節が唄われるようになったのは、江戸時代といわれています。牛深港は古くから小高い丘に囲まれた天然の良港とされ、大阪と鹿児島を往復した上り船・下り船などの風待ち、シケ待ちの港として賑わっていたといわれています。港での風待ちの間の娯楽として生まれたハイヤ節は南国特有のリズムを持つ楽しく軽快な唄で、「阿波踊り」「佐渡おけさ」「アイヤ節…」など全国各地にたくさんあるハイヤ節系統民謡のルーツと言われています。

宴の最大の盛り上がりは自前の和タオルを相手の首に掛けて宴の舞台に引き出します。和タオル掛けられた者は踊や唄を披露しなければなりません、ハイヤのリズムに合わせて手をあげる、腰を振る等々何かしなければ元の席には戻れません。その様な「元ハイヤ」こそ牛深地域の伝統の楽しみでもあります。

アクセス

車：熊本市から三角・天草五橋・天草市本渡・新和町経由で約3時間
バス：天草空港よりバスで約60分

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



天草宝島観光協会牛深支部
<http://www.haiya.info/>

地域伝統芸能活用センターよりお知らせ



本多の森ホール(10/6フィナーレ)

金沢市・本多の森ホールでは記念式典に引き続き、高円宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、多くの方々にご覧いただき無事終了いたしました。様々なかたちでご支援いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



題字:菊池錦子氏

開催期間／平成25年10月5日(土)～6日(日) 下記は各会場での観覧者数です。

会場	10月5日(土) 晴天	10月6日(日) 晴天	合計
本多の森ホール	1,300人	1,100人	2,400人
県立音楽堂交流ホール	1,000人	1,200人	2,200人
金沢城公園	5,000人	7,000人	12,000人

3会場2日間
合計16,600名

平成26年は11月8日(土)～9日(日)の日程で千葉県成田市での開催を予定しています。

「第11回まつりイン台湾2013」に2団体を派遣

派遣団体… 民俗文化サークル四方山会(山形県)
銚子はね太鼓保存会(千葉県)

「まつりイン台湾2013」の概要

～みんなで創ろう 日台友好と友情のステージ～

開催日／平成25年12月7日(土)～8日(日)

場所／漢神百貨・高雄巨蛋(ドーム)前広場 特設会場



「ありがとう(謝謝)台湾」
「元気です(活力)日本」

高雄の大型ショッピングモール「漢神百貨」と「高雄ドーム」の大型複合施設前の広場を貸切り特設会場を設置し、付近一帯が「日本の祭り」の熱気で包まれる2日間となりました。



豊かな街づくりに 役立つ宝くじ。

宝くじの収益金は、図書館や
動物園、学校や公園の整備を
はじめ、少子高齢化対策や
災害に強い街づくりまで、
いろいろなかたちで、みなさまの
暮らしに役立てられています。



 財団法人 **日本宝くじ協会**

財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する
事業への助成を行っています。 **日本宝くじ協会ホームページ** <http://jla-takarakuji.or.jp/>

